

高山社の発展

1873年、高山の小さな村において、高山社の前身である高山組という絹生産会社が設立された。

高山社の創設者は、蚕の飼育に関する生物学的な理論を教えるだけでは十分でないことを理解していた。学科の勉強も、実務訓練と同様に重視された。高山長五郎（1830～1886年）は早速、1884年、自宅で教育活動を始めた。1901年までに高山社は非常に多くの学生を抱えることになったため、藤岡の地に私立高山社蚕業学校を新設した。長五郎自身は1886年に亡くなったため、日本国内で養蚕方法を広める夢の実現を見ることはできなかった。

町田菊次郎（1850～1917年）は、この学校の初代校長であった。授業料は1カ月あたり6.5円（今日のおよそ35,000円に相当）で、部屋代と食事代が含まれた。養蚕を学ぶ通常のコースでは、学科や養蚕理論の学習のほか、体験を通じた実技の習得が可能であった。しかし、授業料を払う余裕が無い人のために、実技のみに限定したもう一つのプログラムも用意されていた。理論、実践、継続的な育成を組み合わせた教育で、この学校は、台湾、朝鮮、拡大する大日本帝国領の各地からと中国からも学生を引き入れた。同校は1927年に廃校し、半世紀にわたる先駆的な養蚕教育は終わりを告げた。